

2020. 5. 31 第五主日ペンテコステ礼拝

ヨハネ 7:37-39、使徒 1:8「生ける水の川の流れ」

## 聖書

37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。

38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

39 イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ下っていなかったのである。

8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。

## はじめに

今日はペンテコステをお祝いする日曜日です。聖霊が弟子たちに降ったことを記念してお祝いします。クリスマス、イースターに次いで、私たちにとっては大きな喜びの日です。なぜ、お祝いするのでしょうか。聖霊はイエスさまが天に上げられた後、信じる者に慰めと力を与えるために来られた神さまだからです。聖霊は目には見えませんがいつも私たちの傍らにいてくださるお方です。それゆえに私たちはもうひとりではないのです。聖霊によって神さまが共におられることを知るゆえにそれは大きな喜びなのです。その聖霊の力によって弟子たちは変えられ、力強くイエスさまのことを宣べ伝えました。その結果地上に教会が生み出されていったのです。それゆえ教会の誕生という意味でもペンテコステはお祝いの日なのです。

聖霊が注がれたことの喜びを共に分かち合ってみましょう。

## 1. 五旬節に起こったこと

聖霊が弟子たちに注がれたときの様子は、使徒2章に記されています。「五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。」(使徒2:1-3)。五旬節とはイエスさまが十字架にかけられた過ぎ越しの祭りから50日目に行われる祭りで七週の祭りとも言います。祭りについての説明は省略しますが、この祭りのときに聖霊が弟子たちに注がれたのです。

聖霊が弟子たちに降ったときの様子を再現することは難しいです。なぜなら、大きな響きと共に、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまったという描写をどのように捉えたら良いのか想像し難いからです。確かに私たちには想像し難い出来事ではあっても、聖霊が注がれたことによって人の心に明らかな変化が起こりましたから、その変化をもって聖霊が注がれたことを証明することはできます。聖霊が注がれたことにより、人は自分の罪を悔い改め、キリストの十字架と復活を信じ、新しい生活へと踏み出していきました。生き方が180度変わったのです。新しい生活へと変わる原動力を聖霊から得たのです。今日も聖霊は人の心に働いておられ、それゆえにキリストを救い主と信じる人が起こされているのです。聖霊は人を新しく造り変える力です。その力が私たち信仰者の内に今も力強く働いていることを感謝します。

## 2. 生ける水の川となる

聖霊が弟子たちに注がれたことにより、彼らは変ぼうさせられました。十字架の場面ではイエスさまを捨てて逃げてしまった不甲斐ない弟子たちでしたが、聖霊が注がれた後の弟子たちは自らの命をかけてキリストを宣べ伝えました。その結果、異邦人である私たちの下に福音が届いたのです。このよ

うに人が力強く生きる者へと造り変えられることを、イエスさまは前もって予告しておられます。それがヨハネ 7:37-39 です。

イエスさまは次のように言われました。「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。『だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。』」と。この祭りは聖霊が注がれた五旬節の祭りとは違います。五旬節の祭りは春の祭りですが、イエスさまが言われた祭りは仮庵の祭りのことで秋の祭りです。ですから、イエスさまが十字架にかけられる約半年前の出来事ということになります。この仮庵の祭りは7日間にわたって行われ、後に1日増えて8日間になりました。「祭りの終わりの大いなる日」とは8日目の最終日のことで、この日にシロアムの池から汲まれた水が神殿の祭壇に注がれる儀式が行われフィナーレを迎えます。祭りのクライマックスです。

人々の歓喜が最高潮に達したとき、イエスさまは「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」と言われました。場の雰囲気にとぐわなないイエスさまのことばは、人の心の奥深くを探るものです。このことを私たちの日常に置き換えてみてください。祭りに代表される高揚感に浸ることができても、それはその時だけのものです。やがて高揚感は消え、日常の中に戻っていきます。日常の場が喜びに溢れた場ならばよいのですが、そこには様々な問題課題が待ち受けていて、心が疲れてしまうことを経験したことがあると思います。心の渇きを癒やすために、束の間の高揚感に走ることもあります。イエスさまは常に人の心、人の内面を見てそこに本当の満たしを与えるべくメッセージを語って来られました。この時も「わたしを信じる者は…心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」と心の満たしを約束してくださいました。この満たしは表面的なものではありません。心の奥底から流れ出る水によって満たされ続けることができるものです。同じような記事がヨハネ 4章にも出てきますが、決して渴かない水です。私たちが

欲しい水は、心の奥底から流れ出る渇かない水ではないでしょうか。この生ける水を注いでくださるのが聖霊です。「イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。」(39節)と、後の聖霊の注ぎを語られたのです。今私たちはこの恵みの中に招かれていることを感謝しましょう。そしてもっと聖霊の満たしを得て、喜んで人生を歩みましょう。もし、心に渇きを覚えているなら、今一度聖霊の下に頭を垂れて満たしを祈り求めましょう。聖霊による生ける水は求める者には誰にでも与えられます。

### 3. 聖霊の力による前進

この水を得て、新しく造り変えられた弟子たちの記録が「使徒の働き」であり、教会誕生と前進の歴史となります。聖霊は私たちの傍らに慰め主となっていつもいっしょにいてくださる優しさを持つ一方で、困難な道でも突き進む力強さを持っているお方でもあります。困難な道に耐える力を与え、私たちを導かれるお方です。時に聖霊による導きには人は恐れを感じます。それは自分が思い描いている道とは違うことがあるからです。また、自分の力では到底なし得ないようなところに導かれることがあるからです。聖霊は私たちを導くからには、その道に留まり前進できるように力を与えてくださるお方であることを忘れてはいけません。

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」(使徒1:8)。弟子たちは聖霊の注ぎを受けたあと、イエスさまのために生きる者へと変えられました。アジアの西端であるエルサレムから始まったイエスさまの十字架と復活のメッセージは、ユダヤとサマリアの全土に広がり、そしてアジアからヨーロッパに入り、今や全世界に広がっています。イエスさまは12弟子を使徒と呼びました。使徒とは大使、使者、特別な使命を帯びた者という意味で使われており、イエスさまの大使となって全世界に散って行ったのです。散って行った先々で、イエスさまの十

十字架と復活の生き証人として語ったのです。最初の12使徒の内、イスカリオテ・ユダは自殺してしまいましたから、その欠けを補うためにマッテヤが選ばれたのですが、その時の条件がイエスさまといつもいっしょにいた者であり、復活の証人でなければなりませんでした。架空のイエスさまとか聞き伝えのイエスさまではなく、寝食を共にし、十字架と復活を経験した者でなければなりませんでした。私たちがイエスさまのことを誰かに伝えるときも同じです。聖書知識や人の証を伝えるのではなく、自分がイエスさまと出会い経験したことを語る事が大切です。自分の体験を語ることに勝るものはありません。福音の広がりには口コミです。自分が体験したことを伝えることでしか広がりません。それが宣教の原則ですから、十字架と復活について黙したら、そこで教会の歴史は止まります。聖霊によって生み出された教会を、私たちの手（私たちの証）で止めるのではなく広げていきたいと願います。そのために皆が聖霊の力に満たしていただきましょう。

#### 4. 内を強めてくださる聖霊

最後に聖霊の力は宣教だけでなく、私たちの内面を強くする力であることを見て締め括ります。イエス・キリストを信じて救われるということは、内に聖霊を宿すことであり、聖霊と共に歩むことによって私たちの内側に変化が起こります。その変化の一つが、「どうか御父が、その栄光の豊かさにしたがって、内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように。」（エペソ 3:16）という祈りの中にあります。聖霊は私たちの内なる人を強くしてくださるのです。私たちの肉体は衰えて行きます。それによって心や気持ちも萎えて、生きていることが空しくなってしまう人もいます。誰もが外なる人は衰えて行きますが、内に聖霊を持っている人は、衰える現状を受け止めつつ、生かされている喜びに支えられて感謝の生涯を送ることが可能になるのです（Ⅱコリント 4:16）。歳を重ねると生きていることがつまらないということを耳にします。健康の課題が増すことは確かに辛いです。しかしその中にあっても神さまにいのちを与えられ、創造の作品として輝いて存在していることを互いに喜び合う社会を築きたいと願っ

ています。どのような状況にあっても、自らの存在を喜ぶことができるのは聖霊なる方が内に宿り、“あなたは愛されている神の子”であると語ってくださるからです。このように聖霊による生ける水の流れは、私たちをいつでも生かし強くしてくださるのです。聖霊の励ましに支えられて最後まで歩んで行きましょう。

## まとめ

ペンテコステは歴史において大きな転換点となりました。神のみこころがこの世に証しし続けられるために、キリストから聖霊なる神へとバトンが渡されたのです。聖霊の時代に生きる私たちはこの引き継がれたバトンを受け取り、渡す役割を与えられています。受け取っただけでは意味がなく、それを渡さなければ流れは途絶えてしまいます。水は流し続けなければいのちを持たないのです。私たち自身が聖霊の水を流し続ける器とされて、その恵みを分かち合う者とされたく願います。そのために私たちの内にある力強く働く聖霊の御業に期待し、聖霊にしたがって歩んで行きましょう。